

なごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌

vol. **95**

身近なのに知らなかった
充電式電池のリスク

老舗カバン店の四代目が挑む
「革×食」本気のコラボ カバンの病院 明石屋

生分解性プラスチックとの向き合い方

なごみ日和
「丹後ちりめんのこれからのために」

もっぺん物語
「食道具 竹上」

癒しの「鞍馬川」のごみを拾いつつ想うこと
鞍馬川さんぽでゴミ拾い部

ごみにまつわるこの数字はなに？

全国に 23,000 店

答えは WEB へ！

※トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」
をご覧ください。



表紙デザイン
嵯峨美術大学 デザイン学科 4年
稲堂丸 怜菜

京都市ごみ減量推進会議

身近なのに知らなかった 充電式電池のリスク



東北部クリーンセンターで発生した火災。破砕機本体で燃え上がる炎。
2021年1月12日発生（写真左）
発火したリチウムイオン電池の例（写真右）

京都市では、2023年4月からプラスチック製品の分別回収がスタートする。2007年から始まったプラスチック製の容器包装材の資源ごみ回収に、今回、新たに「プラスチック製品」が資源として加わることになる。これは2021年6月に公布されたプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（通称：プラ新法）に基づく施策。

この背景には、海洋プラスチックが生態系に与える影響が深刻化していること、プラスチックの製品使用が国際的に抑制される動きが高まっていることがある。プラスチック問題解決には有効であり、排出する市民にとっても分別の煩雑さが軽減されるのだから、グッドニュースにちがいない。しかし、プラスチック製品の回収においては、ひとつ間違えると大事故を起こしかねないリスクが潜んでいることを忘れてはならない。

うっかりは許されない 充電式電池が内蔵されている製品の混入

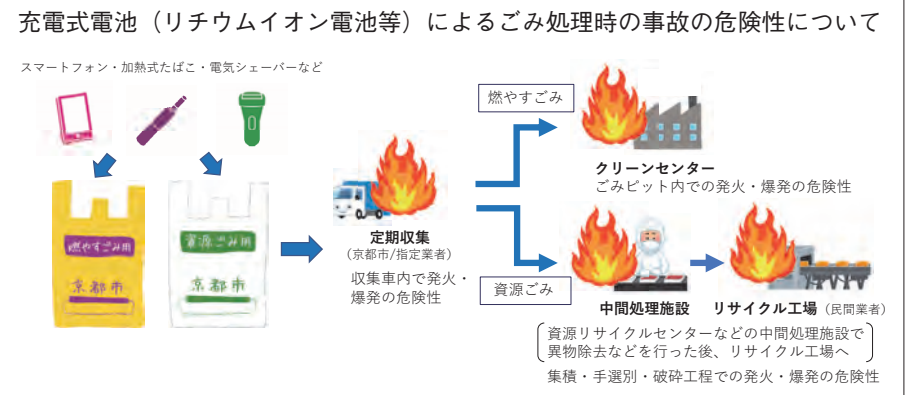
新たな形で実施される資源ごみ回収において懸念されているのが、充電式電池が内蔵されている製品の混入だ。

京都市での事故例を挙げておこう。廃棄物の破碎施設で火災が起き、修繕に半年間、修繕費に1.5億円を要した事故があった。2019年東北部クリーンセンターでのことだ。2020年度には、ごみ処理施設での発火検知回数は208回

例えば、リチウムイオン電池を内蔵した電化製品を資源ごみ用指定袋に放り込む。その袋は地域の回収ステーションへ出され、収集員により収集車へ投入された後、車内で圧縮されることにより製品がこわれ発火する場合がある^{※2}。トラブルもなく中間処理施設やリサイクル工場に運ばれたとしても、手選別や破碎の工程で事故が発生することもある。もちろん、ごみピットなどクリーンセンター内でも起こりうる。

を記録している^{※1}。火元として確認できたのは加熱式たばこ、モバイルバッテリー、スマートフォンなどの充電式電池だと報告されている。

どのような経緯で火災事故が発生するのか。充電式電池の中でもとくに気をつけたいのはリチウムイオン電池だ。引火性液体を利用しているため火災のリスクが高く、外圧（外部衝撃）によって正極と負極の間がショート（短絡）して発熱・発火に至る事故が大半とされる。



リチウムイオン電池は 便利で身近な存在

小型充電式電池は近年、数多くの製品に使われている。なかでも大容量、高出力でありながら小型で繰り返し使用でき、環境負荷が小さいという特徴を持つリチウムイオン電池の需要は多岐にわたっている。電気自動車ばかりか、ドローンや人工衛星などにも利用されている未来型の電池であり、暮らしや社会を変革する可能性を秘めた動力といえる。

現状を知るために製品として使用されているものをピックアップした。

中には、バッテリーが取り出せるものがあるが多くは内蔵型で表には出ていない。薄く小さな形をしているので、とかく存在を忘れがちになるが、その構造上、扱いを間違えると事故につながりかねない。これらのリスクを理解しておくべきであろう。



右側から、環境政策局資源循環推進課 大沼課長補佐、同局施設管理課 東田担当係長、吉野担当、資源循環推進課 清水担当。

リチウムイオン電池が使用されている製品一覧

- 〈日用品〉 加熱式たばこ、ハンディファン（携帯型扇風機）、ハンディクリーナー、電動歯ブラシ、電気シェーバー、電動アシスト自転車、ゲーム機
- 〈AV機器〉 デジタルカメラ、ビデオカメラ、ヘッドホンステレオ、ワイヤレスイヤホン、音楽プレーヤー
- 〈通信〉 スマートフォン、携帯電話、モバイルバッテリー、トランシーバー
- 〈医療関連〉 血圧計、電動マッサージ器、美容関連
- 〈防災設備〉 火災警報器、誘導灯
- 〈OA〉 ノートパソコン[※]

※京都市では回収できないため、一般社団法人パソコン3R推進協会（電話03-5282-7685）へお問合せください

充電式電池は貴重な資源 リサイクルして使いこなそう

リチウムイオン電池はもちろん、小型充電式電池には希少金属が使われているのをご存じだろうか。これらの機器は資源の塊のようなもの。それぞれにリサイクルされているので回収拠点へ持ち込みたい。

バッテリーが取り出せる場合は、回収拠点へ持ち込み、設置されている黄色いボックスで回収。内蔵されている製

品は京都市の場合は各区役所に設けられているエコまちステーションまたはJBRC^{※3}加盟店へ持ち込もう。



使用後の充電式電池（リチウムイオン電池等）の回収について。京都市では各区役所・支所内14のエコまちステーションで回収を実施。回収量は2020年度2.5トン、2021年度3.4トンと増加傾向にある。写真は上京区役所1階入口横の回収ボックス。

- ニカド電池＝ニッケル、鉄、カドミウム
→ニカド電池などに再生
- ニッケル水素電池＝ニッケル、鉄
→ステンレス製品などに再生
- リチウムイオン電池＝コバルト、鉄、アルミ、銅
→耐熱性特殊機器、銅製品などに再生



森田知都子（2023年1月23日取材）

※1 京都市によるリチウムイオン電池等による火災事故防止の啓蒙や、資源物回収拠点の詳細についてはこちら <https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000280205.html>

※2 全国のリチウムイオン電池等による発火事故の実態、事故防止への啓蒙についてはこちら <https://www.jcpra.or.jp/municipality/dangerous/tabid/757/index.php>

※3 Japan Portable Rechargeable Battery Recycling Center 2001年発足「資源有効利用促進法」に基づき、小型充電式電池の回収、再資源化が義務付けられた <https://www.jbrc.com>





老舗カバン店の四代目が挑む 「革×食」本気のコラボ



革工房と和食カフェが融合した河原町六角KOTOWARI店

カバンの病院 明石屋

当会議が運営する修理・リユースナビサイト『もっぺん』でもおなじみの明石屋。創業から120年にわたり、京都駅前革製品の製造・販売を行うカバンの専門店だ。昭和30年代から修理も手がけ、「カバンの病院 明石屋」の名がすっかり定着した。現在、店を切り盛りするのは4代目代表の明石真一さん。自身も革職人である。一昨年に革の工房を併設した飲食店をオープンするなど、新事業にも乗り出した。今回は家業を継ぎ、新たな店舗展開や革製品のリペア普及にも取り組む真一さんにお話を伺った。



有限会社明石屋 代表取締役 明石真一さん

カバンの一生を支える明石屋

明治35年、馬具を扱う店として創業した明石屋。店のロゴマークに馬が使われているのは、馬具店としての礎があることに由来する。時代の変化とともに機器類の革ケース製作に事業の軸を移し、昭和16年に「明石屋皮革製品製作所」を創設。戦時中は革製品の指定工場として軍需品の製造にも携わった。

今では「カバンの病院」として知られる同店だが、意外にも修理を始めたのは、120年の歴史の中でここ60数年のことだそう。昭和35年ごろ、旅行者が壊れたカバンを持って駆け込んできた。当時、革製品の製造・販売が主体であったが、困った旅行者を見かねた先代の国勝氏が、長年培った技術や道具を用い補修を行った。これが大変喜ばれ、カバン修理を始めるきっかけになった。

「京都駅前という場所柄、今も急にカバンが壊れて駆け込んでくる人がいたり、ホテルや運送業者が取扱い中に壊れたと相談に来ることもあります。出先でカバンが壊れるのは一大事

継承すること、変えていくこと

平成30年、父・国勝氏に代わり真一さんが新代表に就任した。代表として「継承する点」と「変えていく点」を聞くと

「高品質の革製品を提供し一生お世話をするという基本的な方針と、愛用のカバンを長く使おうとされるお客様の想いに全

すから、緊急のケースにもできる限り対応しています」と真一さん。

カバン修理に力を入れるようになった同店は、平成9年、正式に「カバンの病院」の商標を登録。販売から修理、メンテナンスまで一貫したサービスを提供し、「一生支えていく」という覚悟をもってカバンと向き合っている。



上質な革を使用したビジネスバッグやカラフルなレディースバッグ、革小物などが並ぶ

力で応える姿勢は大切にしたい」と。そして、変える点としてこんな話をしてくれた。

国勝氏が手がける修理は、傷んだ部分の機能回復が第一。多少見た目が変わっても「とにかく使えるようにする」というも

のだった。しかし、お客様が求めるものは変化しているという。「仕上がりの美しさ、自分好みに変えたい、など要望は多様化しています。それに応えていくためには、たくさんの引出しを用意する必要があります」。

家業を継ぐつもりだった真一さんは、大学卒業後、カバン製造の修業に出た。技術や知識、ノウハウを身につけてきた時、マシンや道具を買い足し、「真一さんの修理」ができる態勢を整えた。

「カフェ&修理」という新形態の店舗



革製品が映えるよう落ち着いた色調で統一された1階店内。2階には子ども連れにも利用しやすい半個室の座敷席も

そんな真一さんが、令和3年、河原町六角に修理工房と飲食店が融合した新店舗を立ち上げた。

「以前から、修理をしている間お茶でも飲んで待っていただける場所が

あれば、と考えていました」と真一さん。中学時代からの同級生で、和食の料理人である清水宏樹氏とのタッグが実現し、革製品の展示・販売や修理もできる新しいスタイルの和食カフェのオープンに至った。店名は「&restaurant KOTOWARI」。KOTOWARIとは漢字で「理」と書き、物事の道理を表す言葉である。「自然の理の中にある『食』と『革』という素材を探求し、この店に凝縮しました」。

町家を改装した店内は、1階がメインダイニング、2階奥に

カバン修理の認知拡大にも一役

新店舗の立ち上げにはこんな願いもある。

革を扱っていると「動物を殺して可哀想」という声をよく耳にするという。

「現在、日本で出回っている牛革の9割以上が食肉加工の過程で出る副産物です。動物の命を余すことなく頂くという意味では、皮革はむしろエコな素材です。勘違いされがちですが、革の良さや魅力をもっと知ってほしい」。真一さんはこんな思いを胸にフリーマーケットや環境フェスに参加し、革小物のワークショップを開催したり、カバン修理を受けている。

「カバンも修理できるの!? とよく驚かれるんです。もっと気軽に修理に出せたらカバン修理の認知度がアップするのでは」。

一口にカバン修理といっても、修理する部位や状態は一点一点異なり、直し方も一通りではない。

「なるべく安く機能だけ回復させたい人もいれば、5,000円のカバンを1万円かけて直す人もいます。どう修理するかはお客様が決めること。こちらは修理方法を幾通りか提示し、料金やメリット・デメリットを丁寧に伝えるよう心がけています」。

修理方法を何パターンも持つことが幅広い要望に応えることになると考え、現在も引出しを増やしている。

は修理工房を併設している。本格和食を気軽に楽しんで欲しいので、敷居の高さを感じさせないカジュアルでおしゃれな空間に仕上げた。革の良さや温かみを感じてもらえるよう、柱や手すり、クッションの装飾、呼び出しベルのカバーなど、内装には随所に革があしらわれている。店内のそこそこにディスプレイされているカバンや革小物はすべて購入可能だ。そして、2階の工房には職人が常駐し、カバンの修理やメンテナンスを行っている。



各テーブルに置かれた「バッグ修理」の案内ポップ。右は革製カバーがかけられた呼び出しベル

「お預かりする場合がありますが、“その場で直す”ことに意味があると思っているので、食事を楽しんでおられる間に直せるよう基本的に所要時間は30分でやっています」。

KOTOWARIをオープンして2年弱。まずは飲食店として知ってもらうことを最優先に運営してきたため、修理の依頼は週に数件と決して多いとは言えない。しかし、これから認知度が高まるにつれ、依頼も増えていくに違いない。

「5年、10年持ったカバンは、気づいていなくてもどこか傷んでいます。革製品はメンテナンス次第で長く持てるので、食事のついでに気軽に相談してほしいですね。緩んだネジの締め直しやオイル手入れなら無料でやらせていただきます」。

今回、料理についてほとんど触れることができなかったが、旬の素材を使ったランチが大変な人気で、予約なしでは入れないほどの盛況ぶりだということをお伝えしておく。

本店 京都市下京区東洞院通塩小路東入る547

TEL : 075-371-6797 FAX : 075-371-6800 <http://www.akashiya-kaban.com>

河原町六角KOTOWARI店 京都市中京区松ヶ枝町463

TEL : 075-366-4920 (レストラン) / TEL : 075-366-4921 (革販売・修理) <https://kotowari.jp>

営業時間

11:00~15:00 (14:30 LO) ランチ / 15:00~17:00 カフェ / 17:00~22:00 (21:00 LO) 居酒屋



人気ランチ、本日の気まぐれ三種井プレート

生分解性プラスチックとの向き合い方

「生分解性プラスチック」をご存じだろうか。海洋プラスチック問題への対応が呼びかけられる中、「環境に優しい」プラスチックとして注目されている。

2019年5月に策定された「プラスチック資源循環戦略^{*1}」には、2030年までに生分解性プラスチックを含むバイオプラスチックを約200万トン導入するという具体的な目標が掲げられている。今後、益々身近な素材となる「生分解性プラスチック」の特徴や課題について考える。

生分解性プラスチックとは？

従来のプラスチックは、石化原料由来、かつ自然界では分解しないのに対し、生分解性プラスチックは「一定の条件下（例えば、温度25℃等）において、60%以上分解すると、生分解性を認められる」と日本バイオプラスチック協会によって定義付けられている^{*2}。土壌中の微生物の働きによって、分子レベルまで分解され、最終的には二酸化炭素と水になり、自然界で循環する。



生分解性プラスチックの特徴について理解できたが、実際には製品が土壌に埋められるとは限らず、土壌以外の環境中に放置された場合はどうなるのだろうか。

筆者の疑問に対し、前日本プラスチック工業連盟 専務理事の岸村小太郎氏^{*3}は「『生分解性』の定義は、実際の環境下での分解性を保証するものではなく、あくまでも一定の条件下の土壌中での分解性能です。海洋に流出した場合は、温度やバクテリアの存在如何によって、かなり遅くなります」と教えてくれた。

従来のプラスチック製品であれば、清掃活動で回収することが可能だが、生分解性によって分解が進んだものが完全に分解されるまでの間、マイクロプラスチックとして環境中に存在する可能性があり、使い方には注意が必要だ。

生分解性プラスチックの可能性と課題

では、生分解性プラスチックをどのように利用すれば、「環境に優しい」素材だといえるのだろうか。岸村さんは、代表的な例として、農業用のマルチフィルム^{*4}を挙げてくれた。生分解性プラスチック製のマルチフィルムは、農作物の収穫後にきっちりと畑にすき込めば、土壌中で分解



日本バイオプラスチック協会作成

し、環境への流出を防ぐことができるという。マルチフィルムを張り替える農家の負担も軽減される。

一方、課題も多い。生分解性プラスチックが普及し、身の回りの様々な製品に使われるようになった場合、通常のプラスチック製品と一緒に回収されリサイクルされると、再生材の品質が低下する（分解しやすくなる）という問題が生じる。そのため、特定の用途に限定し、それだけを回収する仕組みが必要となる。

消費者としてどう向き合うか

これからも、私たちのプラスチックの消費活動が止まることはないだろう。それほど私たちの生活にはプラスチックが必要だということだ。

消費者一人ひとりが3Rを徹底した上で、生分解性プラスチックの特性を正しく理解し、使用後に適正に分解処理されることが当たり前になれば、未来のプラスチック問題を変えられるかもしれない。

生分解性プラスチックの認知度を高め、より良い活用方法を一緒に考える消費者の存在が大切だと考える。

※1 詳細は、環境省「プラスチック資源循環」ホームページを参照 <https://plastic-circulation.env.go.jp/about/senryaku>

図1 公益財団法人日本野鳥の会 海洋プラスチックごみ問題特別連載企画、第5回「バイオプラスチックは廃プラ問題の活路を開くのか？」参照 <https://www.wbsj.org/activity/conservation/law/plastic-pollution/article/2020-11-12/>

※2 詳細は、日本バイオプラスチック協会「生分解性プラスチック入門」参照 <http://www.jbpaweb.net/gp/>

※3 三井化学株ESG推進室アドバイザー

※4 主な効果は、地温の調整、雑草の抑制、病害虫の防除、土壌水分の蒸発防止など

内山 綾乃（京都光華女子大学キャリア形成学部）
（2023年2月取材）

なごみ
日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●● 第37回 「丹後ちりめんのこれからのために」 ●●

京丹後市与謝野町。丹後ちりめんの町として栄えたこのまちでは、今も、歩いているとどこからともなく機織りの「ガチャン、ガチャン」という音が聞こえてきます。

丹後ちりめんを作り続けてきた株式会社丹菱に伺いました。1960年に大手化学繊維メーカーの指定工場となったことから化学合成繊維のちりめんを作り始めた丹菱は、撚りをかける回数や強さを研究し、それぞれの繊維の特徴に適した技法を生み出してきました。

ここで製造されたポリエステルやレーヨンのちりめんは、洋服や風呂敷、和装小物、インテリア雑貨などに使われています。

海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京biz」、ラジオ「ファミリーレストランと海平和のめっちゃうま」などに出演。

ちりめんの需要が減少する中、後継者を育て、技術を守るためには、時代の変化に対応して、今求められるもの、必要とされるものを創り出すことが大切だと、代表の糸井宏輔さんは話します。

家で丸洗いできるポリエステルのちりめんだからこぞできる、洋服をはじめとするアパレル製造に乗り出し、オリジナルブランドを立ち上げました。また、工場見学もできるようにすると同時に、商品の展示販売スペースを設け、さらには天橋立をのぞむまちの自慢の光景を多くの方に楽しんでもらいたいと、イベントなどが開催できるテラスも設置しました。そんな新たな挑戦のモチベーションは、全て、大好きな与謝野のまちと、丹後ちりめんを守るためです。

SDGsも視野に入れ、再資源化を促し、「捨てないアパレル」としての可能性を探求し続ける丹菱の、未来へ向けた地域貢献は続いています。



人と物と。織りなす「もっぺん」物語



第24回

食道具竹上

ある調査によれば、キッチンで最も出番の多い道具は包丁。そして「もっとこだわって買えばよかった…」と後悔するNo1アイテムもまた包丁だそうです。さて、あなたはどんな包丁を使ってる？切れ味はどうですか？「それな…」と表情を曇らせたあなたに朗報です。

食道具竹上は、新進気鋭の料理包丁専門店。プロの料理人を唸らせる店でありながら、敷居は決して高くありません。自社製・他社製を問わずに包丁の修理を受け付けている、たいへん度量の大きなお店です。

竹上の修理は単なる「研ぎ直し」ではありません。包丁に歪みがあれば、重い金槌で叩いて平らに戻します。刃こぼれがあれば、包丁の幅を詰め、全体のバランスを整えます。最後の仕上げが「本刃付け」なる研ぎ。多くの包丁を新品の状態より「切れる」状態まで持っていくことができるそうです。

長年愛用してきた三徳包丁の修理を実際にお願ひしてみました。その仕上がり、その切り心地たるや、「うええええ！」と叫んでしまったほど。まったく力をかけることなく、食材がすーっと切れていく気持ちよさに驚きです。「新品より切れる」は本当でした。



店主で庖丁コーディネーターの廣瀬康二さん。ちょっとした歪みも見逃しません

ちなみに修理費用は2,860円。包丁の幅が気持ち小さくなった感じがします。購入時に「研ぎと修理を繰り返して、ペティナイフになるまで使える」と言われましたが、まだまだ先は長そう。「一生もん」どころか次世代までいけそうです。

包丁の切れ味にストレスを感じている方、ぜひご相談を。毎月開催されている『庖丁の研ぎ方講習』もおすすです。



お店はとてもスタイリッシュ

▶ 食道具 竹上

〒600-8386 京都市下京区黒門通高辻下ル杉蛭子町238-2 TEL・FAX：075-802-3378
営業時間：10:00～17:00 定休日：日曜日 HP：<https://kyototakegami.com/>



癒しの「鞍馬川」のごみを拾いつつ思うこと



エメラルドグリーンな鞍馬川。これまで数十人をここにお連れしたほどお気に入り

昼はとんびの鳴く声、夜は鹿の鳴く声が聞こえる自然豊かな静化市原。フリーランスで編集ライターをしている私は、ハーブ研究家のベニシアさんの連載記事を担当し約2年通っていた影響もあり、こんな場所で暮らしたいと10年前に引っ越してきました。運動不足解消のためもあって、鞍馬川の周辺をよく散歩していますが、美しい自然のアースカラーのなかにごみがあると目につきます。散歩するついでに、目についたごみを持って帰っていたのですが、2年前から、本格的にごみ拾い活動を夫婦で始めました。

目的を「ごみ拾い」にすることで、通り過ぎていたような目の届きにくい場所にもごみが落ちていないか、ちゃんと探すようになりました。すると、思いのほかいろいろなものが見つかります。お菓子の袋、空き缶、ペットボトルなどはよく見かけますし想像がつかますが、モツアレラチーズの袋、冷凍食品の袋（どうやって食べたのでしょうか）、ほうれん草などの葉野菜を束ねるワイヤーなど、家の中にありそうなものがたくさん。そして、極めつきはドアノブやサッシの一部。建築資材が落ちているのです。これには驚きました。別の日には、自転車のハンドルやペンチなども落ちていました。一部が見つかっただけで、ひょっとして上流には自転車が丸ごと落ちているのかもしれない。

そういえば周辺に「不法投棄禁止」などの看板もあります。

「プラネタリーヘルス」という言葉をご存じでしょうか。2015年に世界的医学誌『ランセット』に掲載され、国際会議「ワールドヘルスサミット」でも発表された言葉で、「人類と地球を一体と考え、人類の健康は、地球の健康とは切り離せない」という概念です。人間も地球



不自然な色を見つけて拾ったらこんなものがありました

球のシステムの一部であり、人の健康は、地球の健康、ひいては環境問題を含むさまざまな問題と深く関係しているということになります。半分土に埋もれたごみを拾いながら、私はこの言葉を思い出しました。

大地はいつも木々や野菜が育つ土壌を「循環」して作ってくれています。その恩恵にあやかる人間も、ごみを減らす工夫はもちろん、自主的に気軽にゴミ拾いする人が増えるといいなと思っています。川で拾った複雑なごみを捨てやすい環境があれば、さらに「ごみ拾い活動」の輪が広がるのではないのでしょうか。せっかくなら楽しんで拾おうと宝探しのごみを「発見」する気持ちで、無理せずマイペースに活動しています。鞍馬川で癒されつつ、いっしょにごみ拾いする仲間を募集中です。春から秋にかけては川に足をつけて遊びます。とても気持ちいいですよ。

藤嶋 ひじり（2023年2月10日執筆）

・左京変人図鑑

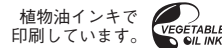
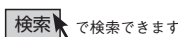
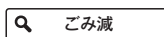
左京のまちづくり活動「左京朝カフェ」のスタッフでもある藤嶋・寺嶋夫婦が発行する左京の魅力を発信する冊子 <https://henjin-zukan.net/>
※鞍馬川さんぽでゴミ拾い部の活動情報はこちら。



『わたしのごみ減らし術』 ▶ 紙袋が収納ボックスに大変身！

モノの整理に役立つ収納ボックス。自宅にある紙袋を使って代用してみませんか？紙袋の上半分を内側に折り返して箱状にするだけで、簡単に収納ボックスが作れます。紙袋のリユースにもなり、不要になったら雑がみ入れや古紙回収へ。ごみの減量とプラスチックの削減にもつながります。

（左京区・〇さん）



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！